

第3期名古屋市スポーツ推進計画（案）に対する 市民意見の内容及び市の考え方

令和5年3月

名古屋市

第3期名古屋市スポーツ推進計画（案）に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

いただいたご意見の概要とそれに対する市の考え方を公表します。

なお、ご意見の内容は、一部要約するとともに、趣旨の類似するものをまとめ、項目別に分割して掲載しておりますのでご了承ください。

1 意見募集期間

令和5（2023）年1月4日（水）から令和5（2023）年2月3日（金）

2 意見提出状況

提出方法	電子メール	郵送	ファックス	合 計
提出者数	3名	0名	4名	7名
件 数	11件	0件	9件	20件

3 意見の内訳

項 目	意見数
計画全体	3 件
アクション1 市民のスポーツへの参加を促進します	8 件
アクション2 子どもたちのスポーツ実施機会をつくれます	2 件
アクション3 誰もが気軽に親しめる環境をつくれます	5 件
アクション4 スポーツ人材を育成します	2 件
合 計	20 件

寄せられた意見と市の考え方

●計画全体 （3 件）

【市民意見の概要】

名古屋市スポーツ推進計画には、スポーツ基本法の理念の核心であるスポーツはすべての市民の権利であることをはっきり書きこむべき。

【市の考え方】

スポーツ基本計画における「スポーツ」の捉え方は、スポーツ基本法の趣旨を踏まえたものとなっており、そのスポーツ基本計画を参酌して策定する本計画においても、スポーツ基本法の理念は継承しております。

【市民意見の概要】

スポーツ実施率は、この5年間で低下したが、その要因を分析し、必要な手立てを示す必要がある。アンケート結果から、性別を問わない長時間労働、家族を支える仕事が女性に重くのしかかるジェンダー不平等、そして経済的負担の重さなどの社会問題の解決が、市民のスポーツ実施率の向上に欠かせないことが読み取れる。スポーツ実施率向上のために全市的に解決すべき課題として積極的に問題提起すべきである。

【市の考え方】

スポーツ実施率の低下の要因として、「仕事が忙しく時間がない」や「きっかけや機会がない」が主な理由となっており、また30歳代から50歳のスポーツ実施率が低い傾向にあることがわかっています。

そのため、これらの世代への働きかけで、全体のスポーツ実施率の向上につながるものと考えており、会社や地域等も含め、様々な場所において年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もが一緒に楽しめるように、ルールや用具を工夫して行う「ユニバーサルスポーツ」を推進することで、スポーツ実施率の向上に努めてまいります。

【市民意見の概要】

「本計画におけるスポーツとは」について、理解が抽象的で分かり難い。
例えば、アジアパラ競技大会で正式競技になっている「チェス」や30年以上前から毎年障害者スポーツセンターで大会を行っており障害者の方々が“自発的”に参画できる「将棋」について、例として表すべき。また、「eスポーツ」について、もう少し具体的な実施例等をあげて、別頁に記載すべき。

【市の考え方】

本計画におけるスポーツの定義は、スポーツ基本法にある「運動競技その他の身体活動」を前提のもと、「身体を動かす遊びやレクリエーション、健康づくりなども含め、スポーツへの自発的な参画を通して、人が「楽しさ」や「喜び」を感じることができるもの」を幅広くスポーツとして捉えており、具体的な事例としては、7ページに記載しております。

「eスポーツ」に関しては、VR（仮想現実）空間でのスポーツ（バーチャルスポーツ）も注目されており、eスポーツの良さを活かしながら、障害の有無に関わらずスポーツを「する」楽しさを広めていきます。また、今後これらeスポーツ等を取り巻く社会情勢について、引き続き国、他都市及び民間の動向を踏まえて、対応してまいります。

●アクション1 市民のスポーツへの参加を促進します（8件）

【市民意見の概要】

アジア・アジアパラ競技大会の正式競技について、市内のスポーツセンター等で、愛知県・名古屋市内のアジア諸国からの労働者や留学生を招いての紹介等の催しを開催する等、身近なところで競技を行うことを積極的に実施することは、非常に有意義だと思うので、実施して欲しい。

【市の考え方】

第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の魅力を発信し、大会開催に向けた機運醸成を行っていくとともに、関係局等と連携を図っていきます。

【市民意見の概要】

アジア競技大会における、費用増大の影響によりスポーツ関連予算が増大した場合、市民に身近なスポーツ予算がしわ寄せを受け、市民負担の増大も招きかねない。市民が気持ちよくアジアの人々とスポーツを通して交流し、地域の平和に貢献するためにも、徹底した情報公開と市民参加が必要である。アジア競技大会の開催が、市民のスポーツ実施率の低下を招くことを強く危惧する。

【市の考え方】

急激な物価上昇や人件費の高騰など、大会経費を取り巻く状況は極めて厳しい状況におかれています。現在は平成28年9月に策定した「第20回アジア競技大会開催構想」における財政計画850億円に応じた大会のあり方について、あらゆる検討を行っているところであり、引き続きスポーツ庁やJOC、OCAを始めとする関係者と協議を行いながら、大会開催に向けた具体化な取り組みを進めてまいります。また、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の開催を通じ、市民の機運醸成を図るとともに、市民がスポーツに触れる機会を提供し、市民のスポーツへの参加を促進するための様々な事業を行うことで、スポーツ実施率の向上を図ってまいります。

【市民意見の概要】

ユニバーサルスポーツの推進について、現在ボッチャが主流のようだが、他の種目も同様に進めてほしい。

【市の考え方】

ユニバーサルスポーツは、性別、年齢、障害の有無等に関わらず、その場にいる誰もが楽しめるようにルールや用具を工夫して行うもので、ボッチャはその考え方に合いやすい種目であることや、知名度が高いことからユニバーサルスポーツへの入口として本市では実施しております。今後ユニバーサルスポーツの推進を行っていくにあたり、複数の種目にも取り組んでまいります。

【市民意見の概要】

「障害者スポーツ指導員」という表現に、指導する側、指導受ける側とのイメージを感じ違和感がある。「寄り添う」「サポートする」ことが分かるようなネーミングを考えてほしい。（アクション4にも関連あり）

【市の考え方】

障がい者スポーツ指導員という呼称は、公益財団法人日本パラスポーツ協会が認定する障がい者スポーツ指導者資格であるため、本市で呼称を変更することは困難ですので、ご理解ください。

【市民意見の概要】

サポートする人は、ボランティア（無償）でなく、公共の人的配置としてほしい。（アクション4にも関連あり）

【市の考え方】

運営にあたっては、様々な障害当事者への対応のため、職員に限らずボランティアの方にご協力をいただいているものでございます。職員の配置については、引き続き適正な人員配置に努めてまいります。

【市民意見の概要】

障害特性を理解した上でサポートできる人材の育成をしてほしい。
（アクション4にも関連あり）

【市の考え方】

現在の障害者スポーツセンターにおきましても、障がい者スポーツ指導員の養成を行っており、様々な障害特性を理解した人材の育成に取り組んでいるところでございます。引き続き障害者スポーツを支える人材の育成に努めてまいります。

【市民意見の概要】

「名古屋市立の小中学校への体験出前授業」について、障がいスポーツ指導員だけで実施するのではなく、現役の選手・アスリートにも参加してもらい、「リアル」を観て欲しい。又、委託する事業団の人員を増やす等の対応策もしてほしい。（アクション2にも関連あり）

【市の考え方】

障害者スポーツの普及啓発事業を行う中で、障害当事者にも参加していただくことで、障害者スポーツへの理解がより深まるものと考えております。引き続き、小中学校への体験出前授業などを通じて障害者スポーツの普及啓発を行ってまいります。

また、体験出前授業の実施体制については、ご協力いただく皆様と連携を図り実施してまいります。

【市民意見の概要】

健康目的の運動習慣の普及について、第3期計画でも積極的に評価してほしい。

【市の考え方】

スポーツが市民の介護予防や健康増進にもつながるものと認識しております。今後も関係局と連携を図りながら進めてまいります。

●アクション2 子どもたちのスポーツ実施機会をつくります（2件）

【市民意見の概要】

幼いころの体験が未来に繋がるので、教育委員会とも連携を図り、実体験を育み明日へ繋げていければ世界に羽ばたくアスリート誕生も「夢」ではないと思う。

【市の考え方】

教育委員会等と連携し、運動やスポーツが好きな子を増やし、大人になってからもスポーツに取り組む基礎を築いていきます。

また、これまでも競技力向上事業やジュニアアスリートサポート事業を通してジュニア選手に対して支援を実施しており、引き続き競技団体を通して取り組んでいきます。

【市民意見の概要】

名古屋市の小中学生全員が、瑞穂スタジアム改修後、瑞穂スタジアムで名古屋グランパスの試合を見られるようにしてほしい。

【市の考え方】

これまでも名古屋グランパスと連携して、小学生等を対象にした無料観戦招待を実施しております。名古屋グランパスをはじめとしたトップスポーツチームと連携し、これらの事業を実施してまいります。

●アクション3 誰もが気軽に親しめる環境をつくります（5件）

【市民意見の概要】

ワールドカップを開催できるレベルの、「サッカー専用スタジアム」を建設してほしい。

【市の考え方】

第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の開催並びにその後の活用を見据え、拠点となるスポーツ施設の整備を実施し、本市での開催が効果的であると見込まれる大規模競技大会を積極的に誘致し、開催に向けた支援を行ってまいります。

【市民意見の概要】

大きな体育館を持っている高校、大学、企業等の会場が利用できるよう、スポーツセンターの抽選作業に会場を入れ込んでほしい。

【市の考え方】

民間スポーツ資源の活用について調査しておりますので、その結果を踏まえて活用の検討をしてまいります。

【市民意見の概要】

- ・難病患者にとってスポーツは「楽しむ」「みんなで集まれる機会」などに加え、「病状の進行を遅らせる」というリハビリテーション的な役割もあるので、位置づけ・コンセプトの中に明記してほしい。
- ・難病患者も含めた障害者のスポーツを、サポートする相談窓口も設置してほしい。

【市の考え方】

新たな障害者スポーツセンター整備にあたっては、リハビリテーションの観点も含めてコンセプト等を掲げさせていただいております。

現在の障害者スポーツセンターにおきましても、難病患者の方も含めた利用者の方を対象とした相談事業を実施しているところでございます。

新たな障害者スポーツセンターにおきましても、引き続き、相談事業を実施してまいります。

【市民意見の概要】

障害者スポーツセンターの整備策も良いことだと思いますが、なかなかそこまで出向いてというのはハードルが高い。小学生や幼児に「場」を提供するために、小学校やコミュニティセンター等の規制を弱くして、裾野を広げて開放して欲しい。

【市の考え方】

障害のある方が、より身近な場所でスポーツに親しめるよう、各スポーツセンターにおいて、障害者向けの教室や講座などを実施しているところでございます。また、スポーツの場の提供として、市立学校の運動場や体育館等の開放を行うほか、各スポーツセンター等においても体育館等の利用ができますので、引き続き広報に努めてまいります。

●アクション4 スポーツ人材を育成します（2件）

【市民意見の概要】

子どもたちの指導者の人権意識の向上、子どもの身体発育等への科学的配慮が必要であることを計画に明記すべきである。

【市の考え方】

関係機関と連携し、子どもたちの指導を行う指導者に対して開催する講習会等を通じて、取り組んでまいります。

【市民意見の概要】

名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会はボランティアで構成されており、年々人材が豊富になり優秀な支援活動が出来る様になっている。市内の児童館やスポーツセンターでの催しにも、積極的に参加していける様に活用・活動の場を広げてほしい。

【市の考え方】

市内各所で行うイベント等においても名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会の皆様に活動いただけるよう機会の創出に努めてまいります。